

JAきたみらい

# あひま サタダ

2011



vol.106

11

## はいっポーズ!

《置戸地区・拓実》

竹内<sup>みつこ</sup>三子さんと陽向<sup>ひなた</sup>ちゃん・輝<sup>ひかる</sup>くん

(紹介は2ページです)

特集

- JAきたみらい  
第6回農業体験&見て歩きツアー
- 今注目のクリーンエネルギー  
太陽光発電のここが知りたい



## 紅葉に囲まれて

## 季節の薫り



JAきたみらい管内に北見市、訓子府町、置戸町など行政が管理運営する牧場が6つある。

各牧場では、5月から酪農家の育成牛など約1800頭を預かり、飼育管理に努めてきた。

入牧当初の牛たちは、慣れない環境に戸惑いも感じていたが、大自然の山々に囲まれ、栄養たっぷりの草が生えた放牧地に、すぐ溶け込むことができた。

約6ヶ月間、牧場で暮らした牛たちも、長雨や降雹、多湿、そして野生動物との遭遇などいろいろな自然体験を通して、ひと回りもふた回りも大きくなった。

間もなく、飼い主がトラックで迎えに来る下牧が始まろうとしている中、群れをなした牛たちは、自由奔放に牧草をおいしそうに食べながら、残り少ない紅葉の季節を楽しんでいるように見える。

久しぶりに我が家の牛舎に戻る1800頭余りの牛たちは今後、酪農経営を支える搾乳牛として活躍する。



【写真は10月19日、北見市留辺薬町の花園牧場で撮影。同牧場は5月20日に約200頭が入牧し、10月31日には、全頭が元気に下牧しました】

## 表紙紹介

### 伸び伸びと育つ仲良し姉弟

106号の表紙撮影は、当初23日の日曜日予定。しかし、天気予報は「雨」ということから、急ぎよ前日の22日に変更。その甲斐あって、真つ青な空と風ひとつないベストコンディションに恵まれました。

朝の搾乳を終え、朝食もそこそこに快く取材に応じてくれた竹内さん家族。

陽向ちゃんは昨年からは、輝くんは今年の春から、お母さんの送り迎えで「置戸町こどもセンターどんぐり」に通っています。お父さんの進さんは「こどもセンター」に通うようになってから、すこく成長しました」と話してくれました。

陽向ちゃんに「大きくなったら、何になりたいですか?」と尋ねると、「ピアノの先生」と答え、早速「こぎつねコンコン」と「メリーさんのひつじ」を歌いながら弾き、ピアノを習っている成果を披露してくれました。

陽向ちゃんと輝くんの大好物は、牛乳とバナナ。牛乳は竹内さんが飼っているジャージー牛の「サンちゃん」の搾りたて牛乳です。仲良く元気に遊ぶ二人の姿を見つめながら、お母さんの三子さんは健康で明るく、素直に育ってほしい」と優しく話してくれました。



#### 【ご家族紹介】

左から～お父さんの進さん(45)と長女の陽向ちゃん(6)、長男の輝くん(2)とお母さんの三子さん(36)

竹内さんは昨年9月に新規参入し、搾乳牛45頭と育成牛25頭を飼育する酪農専業経営です。



## もくじ CONTENTS

### 特集①

J Aきたみらい  
第6回農業体験&  
見て歩きツアー

4

### 特集②

今注目のクリーンエネルギー  
太陽光発電のここが知りたい

6

○季節の薫り……………

2

○表紙紹介……………

2

「伸び伸びと育つ仲良し姉弟」

○J Aきたみらい  
ホットライン東西南北……………

8

8

○ほのぼのの広場……………

12

- ・きたみらいのホープさん
- ・思い出の写真
- ・マイティスト
- 「ミニチュアホース」
- ・私のパートナー
- ・わが家のアイドル
- ・大きくなったら
- ・おらがまちのおしどり夫婦
- ・まちがいきがし
- ・読者の声

○J Aからのお知らせ……………

16

- ・制服一新タマネギ色に
- ・道産野菜テーマに食育

○おひさまサラダクッキング……………

22

- 「ゴボウとサラミの炊き込みご飯」
- 「カボチャのポターージュ」

# JAきたたみらい

# 「農業体験&見て歩きツアー」

## 親子13組27人が参加

JAきたたみらいは毎年、営農指導事業の重点施策として「豊かな地域社会づくりの取り組み」を計画し、食農教育活動を展開しています。本年もその一つとして、第一次産業の農業の重要性と食料の大切さ、さらにJAへの関心を高めることを目的とし、きたたみらい管内の消費者の皆さんを対象に、「第6回農業体験&見て歩きツアー」を10月30日（日）に行いました。

本ツアーには親子13組27人が参加し、北見市内の富里ダム展望台から眼下に広がる山々や本沢牧場を眺めた後、市内美園で長いもの収穫作業、またJA事務所で、ハロウィーンのジャック・オ・ランタン（カボチャちょうちん）作りなどを体験しましたので、その様子を写真で紹介します。

## 長いも掘りと ジャックオランタン作りに挑戦



▲JA職員がジャック・オ・ランタンの作り方の説明を真剣な眼差しで見つめる子どもたち。

(JAセンター事務所の大会議室で)



▲昼食はきたたみらいオリジナルカレーの他に、長いもステーキや長いもの食べ比べも行い、どれもが好評でした。





▼林農園で主に栽培している長いも「トロフィー1066」の特徴や掘り方などについて説明を受ける参加者のみなさん。円写真は今回の収穫体験でご協力いただいた林政則さん。



▲ツアーに参加した親子13組27人のみなさん。  
(北見市美園・林農園の畑で)



▲事前に掘られた溝に入って、長いもを傷めないように丁寧に掘る子どもたち。右写真は、小さなスコップを使って、親子で楽しそうに掘る参加者の皆さんです。

▼円写真は、ハロウィンかぼちゃに目や鼻、口などマジックでデザインし、中の種やわたをきれいに取り除きます。



▲種やわたを取り除く作業を一生懸命に頑張る親子3人の参加者。



▲「上手にできたよ!」と喜び、頭の上に乗せて見せてくれた、参加者の男の子。



### 14個のジャック・オ・ランタンが完成!

1個1個の表情はそれぞれ違いますが、ユニークで特徴あるジャック・オ・ランタンが完成しました。いっしょに作ったコウモリのお面を付けて、参加者全員で記念撮影です。



# 今注目のクリーンエネルギー

# 太陽光発電の ここが知りたい

東日本大震災後、より安全でクリーンなエネルギーが注目されています。なかでも太陽光発電は、家庭でも発電システムを構築できるクリーンエネルギー。その仕組みや特徴、経済性などについて、太陽光発電協会に話を伺いました。



## 環境負荷の少ない 自然エネルギーを 見直すとき

東日本大震災以降、原子力発電に代わる安全でクリーンな電力供給を求める声が高まっています。

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量が少ない太陽光・風力・地熱・水力による発電方法が見直されています。

なかでも太陽光発電は現在、全自然エネルギー発電量の10%前後を占めている注目のエネルギーです。自宅の屋根などに太陽電池モジュールを設置して、太陽光を電気エネルギーに変えて発電するシステムが開発されているため、一般家庭でも取り入れやすいことで知られています。

## 家庭で使う電気は 太陽光発電で 賄えるの？

太陽光発電を取り入れるとしたら、家庭で使用する電気を全部賄うことができるのかどうか気になるところです。日本の一世帯当たりの平均的な年間総消費電力量は、5650kWh/年(省エネルギーセンター「エネルギー・経済統計2009年度版」より)といわれています。

太陽光発電の発電量は、太陽電池容量によって決まります。さらに地域や設置する太陽電池の方位、傾斜角度によっても異なります。目安としては、太陽電池容量が1kWのシステムの場合、年間発電量は約10

00kWh。仮に1戸建て住宅で3kWの一般的なシステムを設置した場合、年間に3000kWhを発電します。平均的な家庭の年間消費電力の約53%を太陽光発電でカバーできる計算です。

もし家庭の消費電力を全て太陽光発電で賄おうと単純に考えた場合、太陽電池容量が6kWのシステムが必要ですが、システムを設置する屋根の面積や強度、そして設置費用の負担が大きくなることも問題です。

その点を踏まえると、家庭の消費電力を太陽光発電で全て賄うと考えた場合、CO<sub>2</sub>の排出量を抑えたクリーンな発電で地球環境に貢献しながら、家庭の消費電力の一部を賄うと考えた方がいいかも知れません。

## 再生可能な 自然エネルギーが 注目されている

自然現象から取り出せるエネルギーは、枯渇することがないため、再生可能エネルギーとも呼ばれます。もちろん太陽光発電もその一つですが、他にも注目されている再生可能エネルギーがあります。



### 風力発電

各地に見られる巨大な風車から、家庭の屋根などに取り付けられる小型の風車まで、風の力を利用して風車を回すことで発電します。



### 水力発電

近年では、ダムによる大規模な水力発電とは異なり、農業用水路や小川の流れを利用して発電する小水力発電が注目されています。組織的に取り組む事例が増えています。

**太陽光発電を身近にする補助金制度と電力買い取り制度**  
補助金制度を賢く使って設置

国の補助金 4万8000円 (1kWにつき) ×3kW <b>14万4000円</b>	+	都 10万円 (1kWにつき) ×3kW <b>30万円</b>	+	市 5万円 (1kWにつき) ×3kW <b>15万円</b>
<b>=合計59万4000円</b>				

※東京都福生市で3kWのシステムを設置した場合(2011年8月時点)

■余った電気は買い取ってもらえる。

**1 kWh=42円**

※2011年度に新たに導入した場合(住宅用)

## 発電して余った 電気は電力会社が 買ってくれる

電力会社と契約すれば、太陽光発電システムが昼間に発電し、家庭で使って余った電気を売ることが出来ます。契約すると面倒な手続きや操作などは必要なく、売った電気の料金は個人の口座に振り込まれます。電気の買い取り価格は、年度によって変動しますが、2011年度の場合、1kWh当たり42円です。口座に振り込まれるお金が楽しみです、節電に励むユーザーも多いようです。太陽光をエネルギーとしていけるだけに、夜間は発電できないので、電

力会社から電気を買って使います。洗濯や炊事には安い夜間電力を使うなど、電力メニューに合わせて使用する家電を選べば、より省エネルギーで家計にも優しいエコな生活を送れます。

## 設置にかかる 費用の採算と 家庭でできる 環境への貢献

太陽光発電システムの設置には、機器一式、設置架台、電気・設置工事費などの費用がかかります。これらの費用は、新築や既築などの設置条件や太陽電池のモジュールのタイプ、あるいは屋根の種類や形状、面積などによって異なるので、各販売業者の営業窓口にお問い合わせする必要があります。

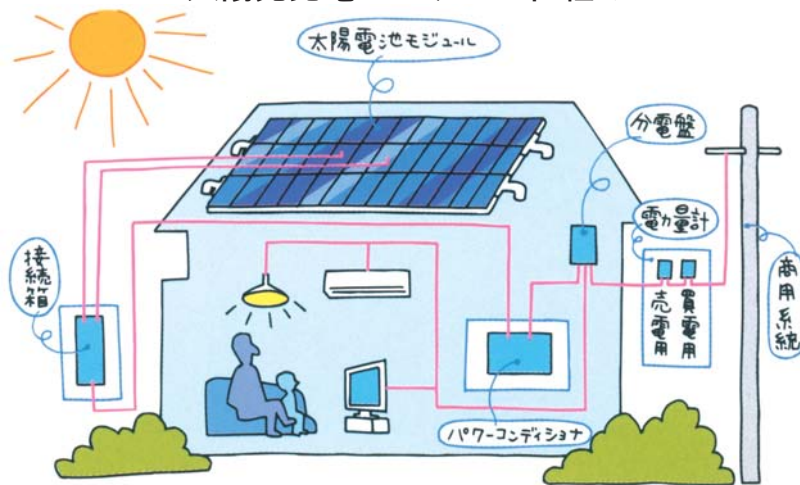
太陽光発電協会内の太陽光発電普及拡大センターの補助金システムを通じた調査報告によると、2009年度の住宅用太陽光発電システムの平均設置架核(機器・工事費込み)は、1kWhシステム60万6000円。一戸建て住宅で一般的な3kWhのシステムを設置した場合に当てはめて計算すると、181万8000円となります。

3kWhのシステムを設置した場合には、一般に10年ほどで採算が合うといわれています(太陽光発電協会の話)。設置費用の償却期間を短めて早く回収するには、年間の電気代削減を徹底することがポイント。新築であれば次世代省エネ基準の高断熱・高气密住宅にする、省エネタイプの機器を使用する、オール電化にする、昼間と夜間の電気料金が違う時間帯別電灯契約にする、などの工夫が必要です。

機器の寿命は、一般的な結晶シリコン太陽電池モジュールは20年以上。20年経っても初年度の9割前後の発電量が見込まれるといわれています。またパワーコンディショナの寿命は10~15年です。2008年度から国の設置補助金制度がスタートしました。こうした補助金制度は地方自治体にもあり、

併用可能ですから上手に利用すれば設置コストを抑えられます。東日本大震災後、注目されているクリーンエネルギー。家庭でできる地球環境への貢献につながるエネルギー源として、太陽光発電を考えてみてはいかがでしょうか。

### 太陽光発電システムの仕組み



屋根に架台を取り付けて、太陽電池モジュールを設置。太陽電池で発電した直流電力を交流電力に変換するパワーコンディショナは、屋内あるいは屋外の壁面に取り付けます。一戸建て住宅で一般的な3kWシステムの場合、太陽電池モジュールの設置面積は約20~30平方mで、重さは設置部材を含め300~450kg程度です。

取材協力：太陽光発電協会 (<http://www.jppea.gr.jp>)

# 12月の餅つきが 今から楽しみ

～相内・東相内の両小学校  
脱穀と精米を体験～

**相内**

AINONAI



▲一升瓶を利用して精米する相内小の児童たち

北見市立相内小学校の5、6年生30人は10月19日、もち米の脱穀と精米体験学習を行いました。  
網走農業改良普及センターの李家主査の説明を受けた児童は、脱穀機、唐箕(とうみ)、もみすり機、ライスグレーダー(ふるい)、精米機などを使って精米までの作業を体験学習しました。精米機から出てくる真っ白なお米に、児童は「おぉー」と歓声

をあげていました。児童たちが田植え、稲刈りを行い、はさ掛けまでの一連の作業と合わせ、授業の一環として学んでいます。  
東相内小学校も5年生36人が10月14日に同様の体験学習を行います。両校とも精米したお米で餅つきを行います。全児童で食味する予定となっています。



▼無料還元を訪れた訓子府町民のみなさん



OKETO

**置戸**

# 60トンの生ごみ堆肥 町民に還元

～家庭菜園用に活用  
置戸と訓子府の両町民に～

置戸町堆肥供給センターは生ごみ堆肥を、訓子府町民に10月23日、30日には置戸町民に無料還元を行いました。  
生ごみ堆肥は、両町から回収した生ごみをバークと混ぜ、攪拌(かくはん)・発酵させ、約3ヶ月をかけて堆肥化したものです。  
23日当日は、早朝から約150戸

の訓子府町民が訪れ、肥料袋に次々と堆肥を詰め込んでいました。  
各家庭で家庭菜園などに活用されることから、用意された30トンの生ごみ堆肥は、午前中になくなる好評ぶりでした。30日にも置戸町民を対象に堆肥還元が行われましたが、大勢の人が訪れていました。

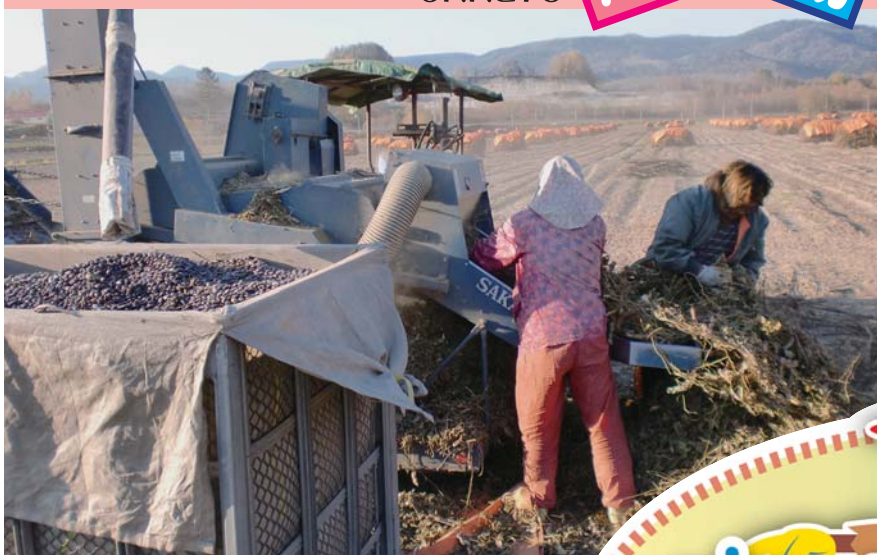


# 高級菜豆の 脱穀作業追い込み

～脱穀音が  
広い畑に響く～



ONNEYU



▲紫花豆の脱穀作業に励む岡村さん家族

高級菜豆がにお積みされた畑で、脱穀作業の最盛期を迎えています。

10月の早い時期ではとら豆や大福、白花豆や紫花豆は10月末まで脱穀が行われます。

温根湯の松山地区で紫花豆4粒の他、とら豆、大福、麦、てん菜、馬鈴薯を作付けしている岡村信夫さんは「今年の菜豆は長雨で苦勞した。」

来年は天候にも恵まれ、収量・品質とも良かったといえる年にしたい」と意気込みを話してくれました。

植え付けから収穫まで手作業が多いことから、作付け面積も減少傾向にあります。脱穀された高級菜豆はJA倉庫に運ばれた後、乾燥・調整され、全国各地に出荷されます。

## 東西

▼知床連山をバックに記念撮影に望む参加者のみなさん



KAMITOKORO



# 近くて遠い 国後島に万感の想い

～年金友の会  
秋の旅行に42人が参加～

上常呂支店年金友の会（林鉄太郎会長）は、10月19日から2泊3日の「秋の親睦旅行」を行い、会員42名が参加しました。会員間の親睦と交流を目的に、毎年行なわれていますが、今年の旅行先は知床方面で宿泊先は「ホテル知床」。

初日は、温泉やポリウム満点な魚介類などの食事を楽しみました。

オホーツクブルーの空が広がった翌日は、世界遺産の知床半島を遊覧船から眺め、午後は知床峠。「近くて遠い」ともいわれている北方4島の国後島をジッと見つめていた会員の「万感の想いがする」と話す言葉が心に残りました。

# 肉厚と甘みが特徴

寒じめ ～ちぢみほうれん草 生育順調～

KITAMI

北見



▲11月中旬の初出荷に向け、順調に育つちぢみほうれん草

きたみらい野菜振興会ほうれん草部の小野俊浩会長（北光）のビニールハウスでは、寒じめちぢみほうれん草が、11月中旬の収穫を控え順調に生育しています。

10月25日現在で、すでに内側に縮んでいる葉も見られ、徐々にちぢみほうれん草に近づいています。

肉厚で甘みがあるのが特徴で、美

味しさを引き出す料理は「しゃぶしゃぶ鍋」です。小野会長の子どもたちも「ほうれん草、もうないの？」と催促するほどの人気メニューです。

収穫時期には葉もさらに大きくなり、そして枚数も増え、寒さが厳しくなるほど甘みが増し、ハウス一面が緑色に覆われます。



▼完成したとんぼ玉に笑顔の役員みなさん



KUNNEPPU

訓子府

# とんぼ玉作りに悪戦苦闘

～役員研修に4名参加～

フレッシュミクス訓子府支部（菅野あけみ支部長）は10月27日、北見市内の「いなほ硝子工房」で役員研修を行い、役員4名が参加しました。

同工房の稲沢越子さんからガラスの魅力などの説明を受けた後、早速「とんぼ玉作り」に挑戦。春からの長い農繁期を終えた役員は、悪戦苦闘しながらも真剣な眼差しでガラス

細工に取り組んでいました。

キラキラと輝く完成したとんぼ玉を手にしながら、会場を移して役員会を開催。「当初、役員という大役を引き受け、プレッシャーが大きかった。でも、各種の活動を通じて人と人とのつながりが得られたことは大きなプラスです」と話す役員の話が印象的でした。

# 旬の味を求めて 各コーナー長い列

～食べて買い物して  
食欲の秋を満喫～

TANNO **端野**



▲「おいしい!」と大好評だった女性部とフレミズの手作り豚汁

収穫の喜びを地元消費者にも届けようと「端野農業物産フェア」が10月16日、端野地区事務所前の特設会場で行われました。来場した皆さんは、JA女性部とフレミズ端野支部の地場野菜がたっぷり入った手作りの豚汁やきたみらい牛乳を味わいながら、食欲の秋を満喫しました。

フェアは花火とともに郷土芸能「端野豊穰太鼓」の披露で開幕。もち米、青果、農畜産物などの格安販売と、1袋100円で玉葱、馬鈴薯の

袋詰め放題には長い列ができました。フェアは端野町観光協会との共催で、姉妹都市の宮城県丸森町も参加して、同町の特産品も販売されました。

丸森町訪問団長の船山雅弘さんは「大震災で皆さんから受けた温かい支援に感謝したい。今後も県を始め町民も復興に向けて頑張っていく」と、お礼と決意の言葉が挨拶で述べられました。

**東西**

▼部員自ら撮影した映像をみんなでチェック



RUBESHIBE **留辺薬**

# 子どもたちに 食の大切さを

～食育青年部  
食育事業に向けて準備～

JA青年部で作る留辺薬町食育青年部（渡辺琢磨部長）は、北見市の補助で「牛乳ができるまで」事業に取り組んでいます。本事業は部員自ら、デントコーン播種、搾乳、乳牛の出産シーンなどを収録し、生産から販売までの映像をもとに、12月に小学生を対象にした学習とアイス作り体験も行われる予定です。

子どもたちに伝わりやすい映像構成にしようと10月21日、部員が集って映像のカット制作作業などに励みました。アイス作りは、普及センターのアドバイスを受け、機械を使わずに作る方法での試作も行いました。

大詰め迎えた渡辺部長は「多くの子どもたちに食の大切さを知ってほしい」と期待を寄せていました。

## 思い出の写真

### 小学校の歓送迎会

この写真は昭和40年代の後半、既に廃校となっている常川小学校の体育館で開かれた先生の歓送迎会に出席した父母の皆さんといっしょに撮った写真です。当時、檜森さん夫妻には4人の子供がおり、全員が常川小学校に通いました。この頃、先生が異動になると、学校の在学に関わらず地域の行事として、先生の歓送迎会を地域に住む皆さんが出席して行われていました。

奥さんの初枝さんも同校の卒業生です。小学校時代の思い出として、各家庭から持ち寄った野菜などを使った給食があり、初枝さんも野菜がいっぱいに入った豚汁やお味噌汁などを食べました。

先代が5畝の水田から始めた耕地面積も、この頃には5畝ほどに拡大され、水稻、玉葱、てん菜、豆、ニンジンなどを作付けしていました。米はバインダーで刈り取り、はさ掛け、乾燥後に農協に出荷していましたが、乾燥不足で時々返されましたが、年内出荷を目指し、ストーブの周りで再乾燥させていた苦労などを話してくれました。

長男の真さんに経営を移譲した現在は、農閑期に地域の集会所で地域の仲間と輪投げやスカットボールを楽しみながら絆を深めています。



相内地区・東相内  
澤合 昭治さん(70歳)



▲ミニチュアホースの親子  
「千尽姫」(奥)と子どもの「レモン」



▲レモンのアゴをなでる澤合さん



きたみらいの  
ホープさん

### 自分の何かを見つけない

端野地区・協和

### 会田 佳弘さん(22歳)

佳弘さんは、秋まき小麦・てん菜・玉葱・赤玉葱などを栽培する会田禎司さん、千賀子さん夫妻の次男で就農して3年目です。

#### 趣味は？

剣道です。中学校まで本格的にやっていました。二段を取得し、農民交流剣道大会にも出場しています。

#### 理想の女性？

優しくてすらっとしている人。天然系でおっとりタイプです。

#### 結婚はいつ頃までに？

いい出会いがあればすぐにでも思っておりますが、30歳くらいまでには。

#### 好きな食べ物、嫌いな食べ物は？

こげていなければ、何でも好きです。

#### 休日はどんな事をしていますか？

家でボーっとしています。後はカラオケで好きな歌を唄っています。

#### 農業に対する抱負を

近年の異常気象など天候に左右されることの多い仕事だからこそ、その日その日に出来る仕事を見極めながら、効率良くこなせるようになりたい。

12月号の「ホープさん」は、JAきたみらい青年部温根湯支部の？さんを予定しています。広報編集委員が、突然、取材にお伺いすると思いますが、何卒、ご協力願います。

# 私の パートナー



今月号の“私のパートナー”は、元気いっぱいの子どもたちと明るい毎日を送っている遠藤弘之さん、美幸さん夫妻を紹介します。

## 家族で沖縄 エンジョイ

北見地区・大正

遠藤 弘之さん(29歳)  
美幸さん(28歳)

### Q知り合ったキッカケは？

弘之さんが、冬の間アルバイトをしていたマジ三輪店でいっしょに働いていました。

### Q初めて合った時の印象は？

弘之さん「明るい人だなあ〜」

美幸さん「優しそうな人だなあ〜」

(本当は、バイト先で美幸さんの上司にとっても親しげに話していた弘之さんを見て「偉い人だと思っていた」そうです)

### Qお互いに感謝しているところは？

弘之さん「毎日の仕事や青年部活動、そして生活の様々な面を支えてくれていることです」

美幸さん「子どもとよく遊んでくれて、頼りがいがあるところです」

### Q1週間休みがあったら、どんなことをしたいと思いますか？

暖かい沖縄に行って、子どもたちといっしょに美ら海水族館などの観光をエンジョイしたいですね。

### Qどんな家庭を築きたいですか？

今まで通り“声を掛け合う夫婦”そして“笑顔が絶えない家庭”にしたいです。

### 【写真紹介】

左から〜長男の楓翔くん(7歳)と弘之さん、美幸さんと次女の聖尚くん(9ヶ月)、長女の光莉ちゃん(6歳)



### 【写真説明】

先生(常川小学校)の歓送迎会に出席した地域の父母の皆さん。後列の右端の方が檜森さんです。

上常呂地区・常川

檜森 剛さん(74歳)



## マイ テイスト

My Taste

## ミニチュア ホース

澤合さんは、今年の8月からアメリカンミニチュアホースを飼っています。

もともと動物好きで、以前からポニーに興味を持っていましたが、新得町のそば祭りに行った際、ミニチュアホースを見て気に入ってしまい、知り合いの農家から譲ってしまいました。譲ってもらった馬は「千尽姫」という名前の雌で、ちょうどその時、「千尽姫」のお腹には子どもを身ごもっていました。先月、無事出産した子馬に澤合さんは「レモン」(雌)と名付けました。

日々、元気に育つレモンには模様(柄)が付いていますが、本来、ミニチュアホースには模様が入らないといわれているので、とても珍しい現象です。

人懐こく、大きな瞳をした「千尽姫」と「レモン」の親子を見つめながら澤合さんは「種付けをして、千尽姫の家族を増やしたい」と話してくれました。

ミニチュアホースは、体高が80センチ程度の馬で、餌はキャベツやニンジンなどの野菜、そして乾燥牧草なども好んで食べます。



# 大きくなったら



温根湯地区・松山  
蔵重

拓真くん(11才)  
茉彩ちゃん(9才)  
彩ちゃん(5才)

## プロ野球選手に

拓真くん(右)

ほくは今、小学校で野球をやっているの、大きくなったらプロ野球選手になりたいです。でも、お父さんの仕事を継ぐかもしれません。

## ピアノの先生

茉彩ちゃん(左)

私はピアノを習っているの、ピアノを上手に弾けるようになって、ピアノの先生になりたいです。

## 保育園の先生

彩ちゃん(中央)

今、保育園に通っています。とても優しく楽しい先生なので、保育園の先生になりたいです。蔵重則和さん、晴美さん夫妻の3人兄妹です。

# ほのぼのの広場



## わが家の愛アイドル



訓子府地区・西富  
林舜也くん(1歳9ヶ月)

## 寒くても元気いっぱい!

取材でお伺いすると、お母さんとお姉ちゃんのお織(あおり)ちゃんも風邪をひいていましたが、とても元気だったのは1歳9ヶ月の舜也くんです。

舜也くんは、車のおもちゃが大好き。お気に入りの愛車に乗るとご機嫌で、エンジン音の音が出るボタンを押しながら、上手に運転をしてくれました。

また、舜也くんはしきりに「シューパーン!」と言っていました、「これは花火のことです」とお母さんが教えてくれました。今年、家族で4回ほど花火大会を見に行きましたが、舜也くんは大喜びで、それ以来よく口にするようになったそうです。

舜也くんは、訓子府地区・西富の林友和さん、麻奈美さん夫妻の長男です。

おらがまちの



## 笑顔で夫婦円満 おしどり夫婦



温根湯地区・大和

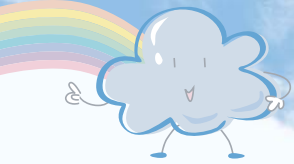
下込 忠男さん(82歳)  
信子さん(79歳)

忠男さんは温根湯で生まれ育ち、奥さんの信子さんとはお見合いで知り合い、24歳の時に結婚。高等学校(現在の中学)を卒業した後、17歳の時に志願して海軍に入隊しました。しかし、半年ほどで終戦を迎えたため帰郷し、農業に従事しました。

忠男さん

信子さんも忠男さんと同じ温根湯で生まれ育ち、この時に結婚しました。この時に、乳牛を1頭導入。子育てが生まれる度に、家族でお祝いしました。結婚して、当時の牛は角がなくて、性が大変で、手で搾乳するうちに話して、手と搾乳するうちに信子さんは結婚して、から信子さんは結婚して、すも笑顔で過ごして、いすも笑顔で過ごして、し、今日の取話して、10年前から「大正琴」を習っている信子さんは、習って1回、夏は2回の練習を繰り返して、健康な生活を送っています。

信子さん



# まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



## 10月号クイズの当選者

10月号のまちがいさがしの答えは「2. 4. 5. 7. 10」でした。正解者45名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJAきたみらいの坂下専務にお願いしました。

( )内は支所名

- ・長谷川和子さん(温根湯)・木島 供子さん(訓子府)
  - ・澤山 大夢さん(留辺蘂)・大武 恭子さん(相内)
  - ・安達 勉さん(置戸)・柳瀬 洋子さん(上常呂)
  - ・花岡 翔太さん(訓子府)・黒須 来春さん(北見)
  - ・黒川 春枝さん(訓子府)・和崎 宏美さん(端野)
- 以上の方々には、エル・ドールの白花豆スイーツ「Re・Bマカロン」を6個プレゼントします。

## 応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、JAきたみらいのドレッシング(玉葱・人参・白花豆)の3種類をプレゼントします。

**合** 年も漬物を漬ける時期がやってきました。1年で早いですね。作物を見て生活しているとトントンと1年が終わってしまいます。歳のせいもあるのかなあ～！  
(温根湯地区・大関 博子さん)

ダイコンを縄で巻いて干すのでしょうか？最近、余り見かけない光景なので、写真など撮ってみたいなあ～と思っています。もし、近所でそんな光景が見られましたら、ご一報いただければ嬉しいです。

**お** ひさまサラダ、毎回楽しく見えています。大変でしょうが頑張ってください。ファイト!! これからも宜しくお願いします。  
(北見地区・石森まり子さん)

読者皆さんのメッセージが大きな励みになります。年内、12月号と新年号をいっしょに編集作業を進めるので大変ですが、ファイトで頑張ります。

**7** 月に引っ越してきて、もう3ヶ月。日々寒くなって、さすが北海道だなあ～と思う毎日です。たくさん着こんで収穫作業、がんばりたいと思います。  
(訓子府地区・大澤由美子さん)

どちらの方から引越されたのですか？本格的な寒さはこれからです。風邪などひかないようがんばってください。

**早** くに「まちがいさがし」をして、応募したら当たりました。その時は、とてもうれしかったです。また当たればいいなあ～と思っています。  
(端野地区・中島 爽良さん)

応募、ありがとうございます。今回は残念ながらハズレとなりました。次回の応募、待っています。

# VOICE

読者の声

# ACTION

## 制服一新 タマネギ色に

### 主産地の魅力を発信

国内大量のタマネギ生産量を誇るJAきたみらいは10月11日から、全役員（給油所業務除く）380人の制服を、タマネギ色や緑の大地をイメージしたデザインに一新しました。主産地の魅力と底力を道内外に発信していくことが目的です。

これまでは既製品の制服を使用していました。在庫などに限りがあることから、早期の制服更新が求められていました。

JAは2009年から「第3次地域農業振興方策と中期経営計画」を

実践しています。その中で「情報発信力強化」を掲げ、その一つとして制服をタマネギイメーじに変更することに決めました。

男性・女性総合職用の上着と、女性用のブラウスに、タマネギのオニ皮から色素を抽出して染色した草木染生地を採用しています。ブラウスは、男性用の上着よりタマネギ色が薄くなっています。またスボン、スカートなどはそれぞれ、様々な作物が命を育む緑の大地を表現する濃緑色となっています。

農産物から出る廃棄物を染料として役立つなど、環境にも優しい取り組みともいえます。

来年の夏服も同色素の半そで服を作る予定となっています。

デザインは職員アンケートなどで選定し、役員に貸与されました。新制服に腕を通した西川孝範組合



▲タマネギをイメージした色合いなどに一新された制服

## 学校給食で

### 「きたみらい牛乳」試飲

#### 訓子府町内の小中学校

JAきたみらいが本年度から本格の販売を始めた飲用乳「きたみらい牛乳」が10月21日、訓子府町内の小中学校の給食に登場しました。

地場産牛乳の消費拡大を目指して「きたみらい牛乳」を開発した際に、同町の学校給食センターに試飲用と

して届けられまし

た。同セン  
ター長の  
佐々木浩  
美栄養士



▲180ml入りのビンに入った「きたみらい牛乳」

## 「野菜博士」を

### 目指して

#### NPOが出前授業

#### 立見市立 北見山小学校

特定非営利活動法人(NPO法人)青果物健康推進協会(東京)は10月13日、北見市立美山小学校で出前授業を行い、地場産野菜を題材に「毎朝、野菜を食へよう」と呼び掛けました。

5年生93人の総合学習の一環で企

画され、同会の出前授業は道内で同校だけです。

市内で、新しい食のスタイルなどを研究するベジフルティチャーの辻綾子さんが教壇に立ちました。

児童の気持ちを和らげるために、地元でとれると思う野菜を9つのマ





▲給食メニューといっしょに並べられた「きたみらい牛乳」

は「こくがあつておいしかった。機会があれば給食時に、子どもたちにも味わってもらいたい」と常々考えていた中、今回の実現となりました。JAも佐々木栄養士の熱意に励え、町内の小中学校試飲会に同牛乳510本の安価提供と併せて、ミルクランド北海道のレジヤシート510枚をプレゼントしました。



▲一気に飲み干す6年生の児童

してくれました。「きたみらい牛乳」の原料は、置戸地区・常盤の安孝志さんの生乳を使用。低温長時間殺菌法で殺菌された牛乳は、風味とこくが味わえるのが特徴で、本年度は1万本の製造を計画しています。



▶9つのマスに野菜を書き込む児童たち

スに書き入れるビンゴゲームで授業開始。児童は思い思いにタマネギやバレイシヨ、ニンジン、ハクサイなど次々と楽しそうに書き込みました。

辻さんは、家族や友だち、そして児童も健康で楽しく過ごせるように、野菜の魅力や大切さを伝えることができる「野菜博士」を目指す「野菜博士心得5ヶ条」を説明。「野菜を好き嫌いなく食べる」「苦手の野菜も使って簡単な料理をする」などの5ヶ条を守ることができれば、同協会から「野菜博士認定書」のカードが交付されます。

5年2組の学級委員長・嶋中尋哉くんは「野菜にいろいろな栄養があることがわかった。ラーメンサラダを作ってみた」と意欲的に話してくれました。



▲5年2組で行われた出前授業。円写真は講師を務めたベジフルティーチャーの辻綾子さん



小野博規校長は「地元野菜を中心に、子どもたちに語りかけるので解りやすかった」とお礼を述べた後、「あらためて食の大切さが理解できたと思う。5年生全員が野菜博士の認定書を得てほしい」と期待を寄せていました。

# ACTION

▼児童にジャガイモの栽培を説明する南会長(左)と司会進行を務めたソムリエの萬年さん(右) (二之江第三小学校で)



# 道産野菜テーマに食育

## 東京都内の 矢口東小学校と 二之江第三小学校

道内のJAやホクレンで作る北海道産青果物拡販宣伝協議会は10月28日と29日の両日、野菜を中心とした食育活動「Greenベジフル教室」を東京都内の2つの小学校で行いました。消費地の子どもに生産者自らが直接、野菜の魅力や知識を伝える試みで、東京都大田区矢口の矢口東小学校と江戸川区江戸川の二之江第三小学校の両校で、総合学習の授業の一環として、馬鈴薯をテーマにして行われました。

両日の授業には、同協議会の事務局(ホクレン)2名、野菜ソムリエの萬年さん(札幌)、JAからはきたみらい馬鈴薯振興会の南敏博会長と営農振興部企画振興グループの堀仁志職員、さらにブレゼン会社(札幌)の2名計7名が参加しました。

両校とも野菜ソムリエの萬年さんが司会。初日の矢口東小学校では、6年生37人と父母に馬鈴薯や道産野菜を説明し、「男しゃく」「メーカーイン」「インカのめざめ」の3品種の食べ比べも行いました。

児童は北海道北見市の位置の確認と、国産馬鈴薯の7割以上を北海道で生産していることや馬鈴薯の原産地、そして北海道で約250種の野菜を作っていることにも驚いていました。南会長は農作業着姿で、

ユーモアを交えて馬鈴薯栽培などを話しました。東京で初の食育を終えた南会長は「数多くある野菜はスーパーで出来るのではなく、土が育むと教え、子どもたちが食や命を真剣に考える同時に、感謝の気持ちを常に持つことを伝えられた」話してくれました。

出前授業は2月に札幌市で2校、本州では既に両校を含む4校が実施し、今後は大阪で2校、都内で3校が計画されています。同協議会事務局のホクレン野菜果実花き課は「明年も道内を含め、本州の小学校に積極的に呼び掛け、道産野菜のアピールを継続的に実施していきたい」と話しています。



▲真剣な表情で説明を聞く矢口東小学校6年生児童



▲3種類のジャガイモの食べ比べた感想を話す児童



▲3種類のジャガイモを食べ比べする児童



▲ジャガイモの栄養素を学ぶ二之江第三小学校5年生児童と父母の皆さん

# 「白花豆」収穫追い込み

## 品質収量ともに上々

温根湯と留辺蘂の両地区で、全国一の生産量を誇る高級菜豆「白花豆」の収穫作業が追い込みに入っています。「品質、収量とも上々」と生産者皆さんの表情も明るいです。

タマネギ、てん菜、小麦などを栽培する同地区大富の茂住修二さん(45)は今年5月末、白花豆2・1畝を作付けしました。

9月に断続的な降雨に見舞われま

したが、平年並みの収穫スタートにこぎ着けました。奥さんの真澄さんと2人のパート従業員と共に、白花豆の竹抜き作業に励んでいました。昨年よりもサヤが長く、豆の粒入りも多いといい、茂住さんは「平年並みの収量は期待できる」と話しています。

収穫した白花豆は、にお積みしてシートを掛け、半月ほど風乾させた

後、脱穀作業が行われます。



▲竹抜き作業に精を出す茂住真澄さん

# 仕入れから販売 生徒ら販売実習

## 北見商業高校

北見商業高校流通経済科の3年生39人が10月15日、北見市内の東武イーストモール端野店で販売実習会を行いました。

当JAの指導で生徒が作ったパニッシュ味のアイスクリームや、道内の商業高校が作った手延べうどんなどを元気に販売していました。

生徒が商品の仕入れから販売、会計処理、販売促進など商品が消費者

の手に届くまでを自ら行い、同校で学んだ実際の・体験学習の集大成として位置付けられている行事です。生徒たちは、お客さんに「もぎたての新鮮な野菜はいかがですか!」などと笑顔で呼び掛け、積極的に販売にあたっていました。

6種類のアイスクリームは、午前中に完売する盛況ぶりでした。市内柏陽町の虎谷幸江さんは「加

工食品は全て手作り、野菜もオール地産産で安心です。生徒が一生懸命頑張る姿に感動しました」と笑顔で話し、野菜やオリジナルのパン、アイスクリームなどを買い求めました。



▲オリジナルパンを笑顔ですすめる生徒たち。円写真はアイスクリームをたくさん買い求めた来客者



# ACTION

## 今年も道路清掃

### 69人が参加してゴミ収集

「道路をきれいにしよう！」とJ Aきたみらいは10月29日、北見市と網走農業改良普及センターの協力を得て、相内地区の夕陽ヶ丘通りと上常呂地区の道々50号と道々27号の3路線の清掃活動を行いました。

2009年に樹立した「第3次地域農業振興方策」の重点項目の一つとして「環境に優しい農業展開」を掲げ、その具体的活動として一昨年は「河川クリーン作戦」と、昨年は「訓子府く置戸町間の道々3路線の「ゴミ収集」に続くものです。

当日はJA職員、JA青年部、女性部の相内と上常呂の両支部、さらに北見市、普及センターなど69人が参加しました。

ゴミ収集の開始にあたって両地区の中川運営委員長と西原運営委員長は「当JA管内の河川や道路をきれいにしよう」と始めた本活動も3回目となった。3路線ともてん菜の搬送車が絶え間なく走るので、事故のないように注意し、清掃活動を進めてほしい」と呼び掛けました。



▲道々50号のゴミ拾いに汗を流す上常呂青年部の部員と燃えるゴミと燃えないゴミに分別されたゴミ袋(右写真)



参加者は3班に別れ、夕陽ヶ丘通り、道々の50号と27号の路肩を90分ほど歩き、もやすゴミ42袋、燃やさないゴミ40袋(総重量約160kg)となる空き缶、ペットボトル、ビールなどを拾い集めました。

一昨年の河川清掃は粗大ゴミ、昨年から道路清掃は空き缶が圧倒的に多く、車窓からポイ捨てによるドライバーのマナーの悪さが伺えました。

## マラソン大会で

### TPP反対訴え

#### JAきたみらい労組が署名運動

J Aきたみらい労働組合の組合員17人は、北見市内の香りやせ公園で10月9日開かれた「第3回北見ハーフマラソン大会」で、環太平洋経済連携協定(TPP)交渉参加に反対する署名運動を行い、多くのランナーや応援に駆けつけた大勢の来場者が署名に応じてくれました。

同大会は北見青年会議所が主催し、全国から1746人が出場。オホーツクブルーの空の下、市内を走りました。



▲マラソン大会を走り終えた選手に「きたみらい牛乳」を配布するJA職員

同労組の組合員は発着点のイベント会場で、地場産タマネギとバレイシヨの詰め合わせ(1kg入り)1000袋を来場者に配布、併せてTPP交渉に参加しないことを求める署名を呼びかけました。

また、大会を後援した同JAも「きたみらい牛乳」(180ml入り)と「オニオンスープ」を各400人に振る舞いました。



▲TPP交渉に参加しないことを求める請願と署名を呼び掛けるJA職員。なお、会場では319人の方から協力をいただき、その後、職員などに署名活動と呼び掛け一ータルで1000人の署名をいただきました。

第9回

理事会報告

●平成23年10月28日(金)

10月28日、午前9時より第9回定例理事会が開催され、報告事項14件、議決事項5件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①内部監査（無通告：総務部門）報告について
- ②監事監査（定期：上半期）報告について
- ③全国監査機構期中監査報告について
- ④組合員状況報告について
- ⑤財務状況報告について
- ⑥訴訟案件について
- ⑦JA共済コンプライアンス点検の結果報告について
- ⑧作況調査（10月15日）報告について
- ⑨JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策北海道協議会について
- ⑩平成23年産麦類精算実績について
- ⑪平成23年産共計豆類仮渡金について
- ⑫平成23年産玉葱・馬鈴薯の選果状況について
- ⑬平成23年産共計玉葱・馬鈴薯の概算金について
- ⑭生乳生産状況及び個体取引価格状況について

【議決事項】

- ①出資減口及び持分譲渡について
- ②固定資産の取得及び処分について
- ③諸規程の改正について
- ④雹害に対する災害資金対応（案）について
- ⑤平成24年産共計玉葱取扱要領（早出し取扱細則）について

2011

スノーマーチフェスタ

11/28

新品種のジャガイモ「スノーマーチ」の特徴を知り、おいしいミニコース料理を味わいながら、「スノーマーチ」の良さを知っていただくフェスタを次の通り開催します。

- とき 11月28日(月) 11:00~14:00
- ところ ホテル黒部（北見市北7条西1丁目）
- 参加費 1,000円（ミニコース料理の昼食代として）  
※事前申し込みが必要

○フェスタ内容

【講演】 11:00~12:00  
2名の生産者からの想いなどが話されます。

【ランチ】 12:10~13:10  
スノーマーチを使ったミニコース料理  
・前菜・スープ・メインデッシュ・デザート

【交流会】 13:10~14:00  
・スノーマーチの特徴と美味しく食べるために  
・ジャガイモと食育

- 主催 オホーツク総合振興局・網走農業改良普及センター・道総研北見農業試験場
- 共催 さたみらい農業協同組合・財団法人オホーツク地域振興機構
- 後援 訓子府町・北見市・置戸町
- 協力 ホテル黒部・社団法人全日本司厨士協会北見支部・北見消費者協会・一般社団法人北海道中小企業家同友会オホーツク支部・株式会社マルキタ

お申し込みとお問い合わせ

先着150名（申込み締切り 11月15日）  
オホーツク総合振興局農務課農産係  
網走農業改良普及センター  
☎ 0152-41-0664  
☎ 0157-36-1421

センター・地区事務所

	営業時間				備考
	平日	土曜日	日曜日	祝祭日	
事務所	9:00~17:00	9:00~12:00	休み	休み	第2・4土曜日休業
金融窓口 (ATM)	9:00~15:00	休み	休み	休み	
共済窓口業務	9:00~18:00	9:00~14:00	休み	休み	
	9:00~15:00	休み	休み	休み	

資材店舗

	営業時間				備考
	平日	土曜日	日曜日	祝祭日	
北見	9:00~17:00	9:00~12:00	休み	休み	整備工場含む 第2・4土曜日休業
温根湯	9:00~17:00	休み	休み	休み	
留辺蘂	9:00~17:00	休み	休み	休み	
置戸	9:00~17:00	9:00~12:00	休み	休み	第2・4土曜日休業
訓子府	9:00~17:00	9:00~12:00	休み	休み	整備工場含む
相内	9:00~17:00	休み	休み	休み	
上常呂	9:00~17:00	休み	休み	休み	
端野	9:00~17:00	9:00~12:00	休み	休み	農機修理工場含む・第2・4土曜日休業

給油所

	営業時間				備考
	平日	土曜日	日曜日	祝祭日	
北見(中の島)	8:00~19:00	8:00~19:00	8:00~18:00	8:00~18:00	
温根湯	8:30~18:00	8:30~18:00	8:30~17:00	8:30~17:00	
留辺蘂	8:30~18:00	8:30~18:00	8:30~17:00	8:30~17:00	
置戸	8:30~18:00	8:30~18:00	8:30~17:00	8:30~17:00	
訓子府	8:30~18:00	8:30~18:00	休み	8:30~17:00	
相内	8:30~19:00	8:30~19:00	8:30~17:00	8:30~17:00	
上常呂	8:30~18:00	8:30~18:00	休み	8:30~17:00	
端野	8:30~18:00	8:30~18:00	8:30~17:00	8:30~17:00	第2日曜日休業

就業時間の変更

11月1日より、センター、地区事務所、資材店舗、給油所の就業時間が次の通り変更されていきますので、お知らせ致します。  
(平成23年11月~平成24年3月)

11/1から



【材料：4人分】

- 米 ……………米用カップ2(300g)
- 水 ……………360ml
- ドライサラミ ……………70g
- ゴボウ ……………1/2本(100g)
- マイタケ ……………1パック(100g)
- スイートコーン(冷凍) ……………50g
- A [ スープのもと ……………小さじ1
- 塩 ……………小さじ1/3
- こしょう ……………少々

ゴボウとサラミの炊き込みご飯

【エネルギー(1人分あたり) 約390kcal】

【作り方】

- ①米は洗って、ざるに取り、水気を切る。炊飯器に入れ、分量の水に漬けて約30分置く。
- ②ゴボウは洗って皮をこそげ、斜め薄切りにする。水にさらして、水気を切る。マイタケは粗くほぐす。サラミは2mmの厚さの半月切りにする。
- ③炊飯器に、②、コーン、Aを入れて、普通に炊く。
- ④全体を大きく混ぜる。器に盛る。

メモ

うま味が出る素材ばかりを使った、洋風炊き込みご飯です。おつまみにすることが多いサラミですが、とっても良い味が出ます。ゴボウの風味と歯触りも楽しみましょう。



【材料：4人分】

- カボチャ ……………400g
- タマネギ ……………100g
- バター ……………10g
- A [ 水 ……………カップ2
- スープのもと ……………小さじ1
- 牛乳 ……………300ml
- コーヒー用クリーム ……4個(20g)
- 塩・こしょう ……………各少々
- カボチャの種(おつまみ用) …12粒
- クラッカー ……………8枚

カボチャのポタージュ

【エネルギー(1人分あたり) 約221kcal】

【作り方】

- ①カボチャは種とわたを取り、皮をむく。薄切りにする。タマネギはみじん切りにする。
- ②鍋にバターを入れ、タマネギを、しんなりするまで炒める。カボチャを加えバターがなじんだら、Aを入れカボチャがやわらかくなるまで約15分煮る。
- ③②を目の細かいざるでこす。鍋に戻し入れ、牛乳、クリームを加える。ひと煮たちさせ、塩、こしょうで味を調える。
- ④器に盛り、カボチャの種をのせ、クラッカーを添える。

メモ

カボチャを薄く切って、やわらかく煮ることで、ざるでこす作業も楽で簡単。小さい子どもから年配の方まで、幅広く喜ばれます。たくさん作って冷蔵庫で保存し温めていただくこともできます。冷凍カボチャでも作れます。

編集後記

- ・今月号の「おひさまサラダ」で、3つの食農教育の取り組みを紹介しました。一つは当JAの「農業体験&見て歩きツアー」、二つ目は市内美山小学校で行われた「野菜博士を目指して」、最後に東京都内の2つの小学校で行われた「ベジフル教室」です。
- ・3つの取り組みとも同行取材をして感じたことは、地元は勿論のこと、東京の子どもたちや父兄も食にすごく興味をもっていることです。特に北海道の大自然とそこで育て生産される農畜産物に深い関心を寄せています。
- ・食育には費用が伴います。一人の生産者や1JAが一生懸命取り組んでも限界があります。行政やJAグループ、関係団体などとタッグを組んで、もっともっと北海道やオホーツク地域の美味しい農畜産物を知りたいと思っている人たちに伝えるためにも、第一次産業の農業に携わる私たちが「知恵を出さなければ」と思いながら原稿を記しましたが、皆さんはどう考えますか？ (堀 仁志)

JAきたみらい概要

(平成23年10月20日現在)

- ・組合員数(正) 1,849人
- ・組合員数(准) 5,950人
- ・組合員戸数(正) 1,262戸
- ・貯金 98,823百万円
- ・貸出金 21,096百万円
- ・出資金 5,082百万円